

平成 24 年 1 1 月 1 日

万年青年の油屋熊八翁が愛用した



「温泉ネクタイ」登場！

(熊八翁御子息の油屋正一さんと赤ネクタイ)

全国のみなさんに大分の温泉のすばらしさや大分県観光開発の恩人といわれる油屋熊八翁のPR、さらには多くの方が温泉に入って「元気・気力・活力増進」で活動できることを祈念して油屋熊八翁が愛用した「温泉ネクタイ」の企画を行いこのほど完成しました。

このネクタイの生地柄には、源泉数・湧出量ともに日本一の大分県の温泉をイメージするオリジナルの温泉マークが数多くデザインされており、正面右下には熊八翁が別府観光のキャッチコピーとして考案した「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」をイメージして「山の緑、海の青、温泉の赤、湯けむりの白」がデザインされた「温泉マーク」の刺繍入りです。

11月1日に別府公園で開催された油屋熊八翁碑前祭の際にはご子息の油屋正一さんはじめ参列者のみなさんにこの温泉ネクタイが配布されました。これからは現在大分県がPRしている「おんせん県」を全国に情報発信するために、多くの温泉好きのみなさんがこの赤ネクタイを着用して元気になって頂くことを心より期待しています。

(油屋熊八翁が愛用した温泉ネクタイ)

油屋熊八翁のトレードマークがこの赤ネクタイです。この赤ネクタイは大正時代にアメリカの35大学により「上海講座」が別府で開催された際に、その団長夫人からプレゼントされたものです。この時に油屋熊八翁は、このネクタイの贈り物は「いつまでも青年の志で頑張りなさい」という応援メッセージと受け止め、60歳を超えてからも常に身に着けて精力的に観光開発事業に取り組みました。熊八翁自身もこれ以降は自分を叱咤激励するために、自称「万年青年」と呼んでいました。

(熊八翁の人柄を表す句)

「春めくや赤ネクタイの温泉の亭主」 (永田前東京市長)

「百万金を儲け百万金を失うて平然たる男」 (土屋大夢)

「大手形色紙に押して銀行の頭取の肝を潰すか熊八」 (前中根三和銀行頭取)

(お問い合わせ先)

村上アヤメ会世話人会 事務局 平野芳弘

(連絡先：平野資料館 TEL 0977-23-4748)